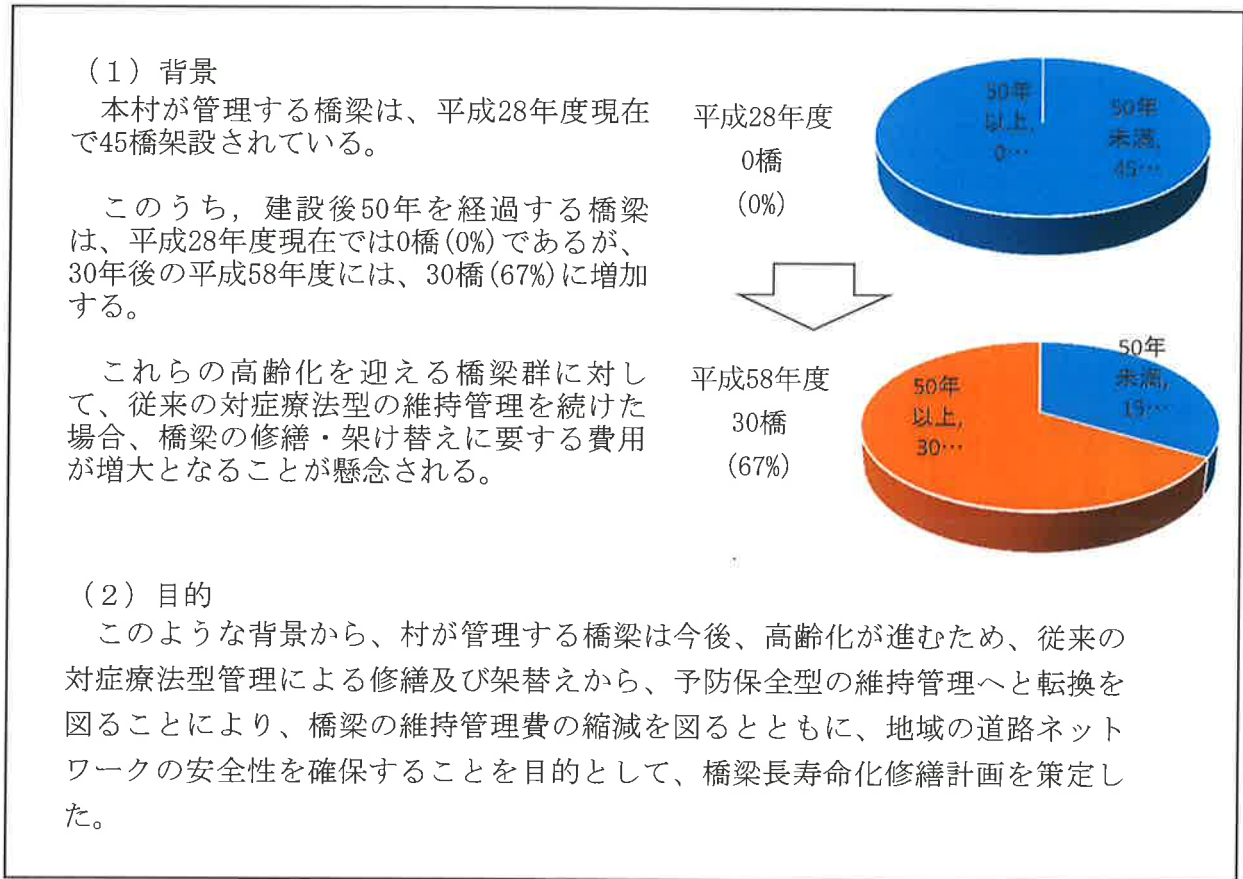


大宜味村 長寿命化修繕計画

平成29年2月

大宜味村役場 建設環境課

1. 長寿命化修繕計画の目的



2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	一般国道	主要地方道	村道	合計
全管理橋梁数	0	0	45	45
うち計画の対象橋梁数	0	0	45	45
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	45	45
うち平成28年度計画策定橋梁数	0	0	45	45

長寿命化修繕計画の対象：

- ・ 緊急輸送路（又は避難経路）に位置する橋梁
- ・ 桁下に道路がある橋梁
- ・ 観光地へのアクセス道路に位置する橋梁
- ・ バス路線に位置する橋梁
- ・ 市町村間を結ぶ路線に位置する橋梁
- ・ 国道、主要地方道へのアクセス路線に位置する橋梁
- ・ 近隣に重要な施設がある橋梁

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全度の把握の基本的方針

村では、「道路橋定期点検要領」（平成26年6月国土交通省道路局）に基づいて行う5年に1回の定期点検及び日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

日常時の点検（パトロール）は、村職員にて実施し、橋梁の安全性を確認すると共に、点検費用の削減を図る。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

村が管理する橋梁の中で、架設後20年以上経過した橋梁は全体の約67%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想される。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減する。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

(1) 次回点検時期

対象橋梁に対して平成28年度に定期点検を実施しており、次回の定期点検は平成33年度を予定している。

(2) 健全性の診断

平成27年度より定期点検では、橋単位において健全性の診断を行うこととなった。

表-2 橋梁定期点検要領における対策区分の判定区分

区分		判定の内容
健全性	対策区分	
I	A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
	B	状況に応じて補修を行う必要がある。
II	C1	予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
	M	維持工事に対応する必要がある。
III	C2	橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
IV	E1	橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。
	E2	その他、緊急対応の必要がある。
	S1	詳細調査の必要がある。
	S2	追跡調査の必要がある。

(3) 点検結果一覧

巻末へ掲載

点検結果一覧表

NO	路線名	橋梁名・函渠名	架設年次 (西暦)	供用 年数	橋長 [m]	径間数	橋架母 の 健全性 の 診断	対策 区分 の評価	最新 点検 年度
1	田嘉里線	見里橋	1978年	38	46.0	2	I	C1	H28
2	謝名城線	一名代橋	1977年	40	15.5	1	Ⅲ	C2	H28
3	喜如嘉線	幸地橋	不明	不明	6.9	1	Ⅱ	C1	H28
4	喜如嘉線	大門橋	2012年	4	3.1	1	Ⅱ	M	H28
5	饒波石山線	親田1号橋	1991年	25	15.0	1	I	B	H28
6	饒波石山線	親田2号橋	1993年	23	14.4	1	Ⅱ	C1	H28
7	饒波石山線	親田3号橋	1993年	23	14.3	1	Ⅱ	C1	H28
8	饒波石山線	山田橋	1993年	23	10.8	1	Ⅱ	C1	H28
9	饒波石山線	BOX橋	不明	不明	3.6	2	Ⅱ	C1	H28
10	大工又線	大工又橋	1987年	29	40.2	2	Ⅱ	C1	H28
11	大工又線	カミ橋	1992年	25	24.8	1	Ⅲ	C2	H28
12	大工又線	シヌキ橋	2001年	15	123.0	3	Ⅱ	C1	H28
13	大工又線	ジックン橋	2001年	15	114.0	4	Ⅱ	C1	H28
14	大工又線	ムムキ橋	2000年	16	80.0	3	Ⅱ	C1	H28
15	大工又線	カンギ橋	2000年	16	124.0	3	Ⅱ	C1	H28
16	押川線	押川1号橋	不明	不明	9.4	1	I	B	H28
17	押川線	押川2号橋	不明	不明	6.5	1	I	B	H28
18	押川線	押川3号橋	不明	不明	7.8	1	I	B	H28
19	押川線	押川4号橋	不明	不明	8.0	1	I	B	H28
20	押川線	押川5号橋	不明	不明	6.3	1	I	B	H28
21	押川線	押川6号橋	不明	不明	6.8	1	I	B	H28
22	平南線	あざか橋	1981年	36	15.0	1	Ⅲ	C2	H28
23	平南線	BOX橋	不明	不明	2.0	1	Ⅱ	C1	H28
24	田嘉里線	屋嘉比橋	1979年	37	18.2	1	I	B	H28
25	野国納線	川茶橋	1981年	35	18.0	1	Ⅲ	C2	H28
26	浴川線	浴川橋	1977年	39	15.4	1	Ⅲ	C2	H28
27	大川線	1号大川橋	1993年	23	13.4	1	I	B	H28
28	大川線	2号大川橋	不明	不明	8.0	1	Ⅲ	C2	H28
29	津波江州線	上アサカ橋1号橋	2001年	15	57.0	2	I	B	H28
30	津波江州線	上アサカ橋2号橋	2000年	16	60.0	2	I	B	H28
31	津波江州線	BOX橋	1987年	30	2.1	1	Ⅱ	C1	H28
32	平南當原線	平南橋	2002年	14	40.0	1	Ⅱ	C1	H28
33	海染江州原線	江洲橋	1978年	39	8.7	1	Ⅱ	C1	H28
34	安根線	安根橋	不明	不明	9.5	1	Ⅱ	C1	H28
35	根路銘線	根路銘橋	2015年	1	11.1	1	I	A	H28
36	饒波渡口線	饒波橋	1995年	22	21.6	1	Ⅱ	C1	H28
37	六田線	BOX橋	2000年	17	10.1	1	I	B	H28
38	押川エーガイ線	根路銘	1997年	20	9.2	1	I	A	H28
39	立名原線	石保橋	1977年	40	9.3	3	Ⅲ	C2	H28
40	結の浜線	結橋	2011年	5	99.0	3	I	B	H28

点検結果一覧表

NO	路線名	橋梁名・函渠名	架設年次 (西暦)	供用 年数	橋長 [m]	径間数	橋梁毎 の 健全性 の 診断	対策 区分 の評価	最新 点検 年度
41	外堀田線	外堀田橋	2009年	7	12.6	1	Ⅱ	C1	H28
42	外堀田線	外堀田橋側道橋	不明	不明	16.3	1	Ⅱ	C1	H28
43	大宜味大兼久線	兼久橋	2014年	2	7.7	1	Ⅰ	A	H28
44	津波線	津波橋1	2013年	3	2.3	1	Ⅱ	C1	H28
45	津波線	津波橋2	2013年	3	2.2	1	Ⅰ	B	H28

年数	現在
50年未満	45橋
50年以上	0橋

※設置年不明の橋梁は架設から20年経過とする。

年数	30年後
50年未満	15橋
50年以上	30橋

NO	橋梁名・区画名	路線名	所在地	構造形式	架設年次 (西暦)	供用 年数	供用 年数 (30年後)			橋長 [m]	径間数	部材単位の診断						主な変状と部材		構造上の 健全性の 診断	対策区 分の評価	最新 点検 年度	
												上部構造(下段はBOX)			下部 構造	支承部	その他	対象部材	変状の種類				
												主桁 加圧 主体	横桁 橋手	床版 ウイング									
1	兎里橋	田島里線	大宜味村字田島里	PCT桁橋	1978年	38	1	68	0	1	46.0	2	I	I	I	I	I	II	その他 (地盤)	うき 剝離・鉄筋露 出	I	C1	H28
2	一名代橋	別名城線	大宜味村字別名城	RCT桁橋	1977年	40	1	70	0	1	15.5	1	II	I	III	II	I	II	床版	ひびわれ、うき 剝離・鉄筋露 出	III	C2	H28
3	幸地橋	喜如嘉線	大宜味村字喜如嘉	RC床版橋	不明	20	1	50	0	1	8.9	1	II	外	外	I	I	II	主桁	うき	II	C1	H28
4	大門橋	喜如嘉線	大宜味村字喜如嘉	PCBOXカルバート	2012年	4	0	34	0	0	3.1	1	II	I	外	外	外	I	底版	土砂堆積	II	M	H28
5	観田1号橋	観波石山線	大宜味村字観波	PCホロースラブ橋	1991年	25	1	55	0	1	15.0	1	I	外	I	I	I	II	その他 (伸縮装置)	土砂詰まり	I	B	H28
6	観田2号橋	観波石山線	大宜味村字観波	RC中空床版橋	1993年	23	1	53	0	1	14.4	1	II	外	I	I	II	II	主桁	ひびわれ	II	C1	H28
7	観田3号橋	観波石山線	大宜味村字観波	RC中空床版橋	1993年	23	1	53	0	1	14.3	1	II	外	I	II	II	II	主桁	ひびわれ	II	C1	H28
8	山田橋	観波石山線	大宜味村字観波	RC単純床版橋	1993年	23	1	53	0	1	10.8	1	I	外	I	II	I	I	下部構造 (橋台)	うき	II	C1	H28
9	BOX橋	観波石山線	大宜味村字大宜味	RCBOXカルバート	不明	20	1	50	0	1	3.6	2	II	I	外	外	外	I	頂版	うき 剝離露出	II	C1	H28
10	大工又橋	大工又線	大宜味村字田港	PCホロースラブ橋	1987年	29	1	59	0	1	40.2	2	I	外	I	II	I	I	下部構造 (橋脚)	ひびわれ	II	C1	H28
11	カミ橋	大工又線	大宜味村字田港	鋼桁橋	1992年	25	1	55	0	1	24.8	1	I	I	I	III	III	III	支承 下部構造(橋 台)	ひびわれ 及下・移動	III	C2	H28
12	シイキ橋	大工又線	大宜味村字榎藤館	PCT桁橋	2001年	15	0	45	0	0	123.0	3	I	I	I	II	I	II	下部構造 (橋脚)	ひびわれ	II	C1	H28
13	シッケン橋	大工又線	大宜味村字押川	PCT桁橋	2001年	15	0	45	0	0	114.0	4	I	I	I	II	I	II	下部構造 (橋脚)	ひびわれ	II	C1	H28
14	ムギキ橋	大工又線	大宜味村字押川	PCT桁橋	2000年	16	0	46	0	0	80.0	3	I	I	I	II	I	II	下部構造 (橋脚)	ひびわれ	II	C1	H28
15	シキキ橋	大工又線	大宜味村字田港	PCT桁橋	2000年	18	0	46	0	0	124.0	3	I	I	I	II	I	II	下部構造 (橋脚)	ひびわれ	II	C1	H28
16	押川1号橋	押川線	大宜味村字押川	RC床版橋	不明	20	1	50	0	1	9.4	1	I	外	外	I	I	II	舗装	路面の凹凸	I	B	H28
17	押川2号橋	押川線	大宜味村字押川	RC床版橋	不明	20	1	50	0	1	6.5	1	I	外	外	I	I	II	その他 (防護柵)	腐食	I	B	H28

NO	橋梁名・路線名	路線名	所在地	構造形式	架設年次 (西暦)	供用年数	供用年数 (30年後)		橋長 [m]	径間数	部材単位の診断						主な劣状と部材		構造上の 健全性の 診断	対象区分 の評価	最新点検 年度
											上部構造(下段はBOX)			下部 構造	支承部	その他	対象部材	劣状の種類			
											主桁 加ハート 主柱	横桁 懸手	床版 ウイング								
18	押川3号橋	押川線	大宜味村字押川	RC床版橋	不明	20	50	0	7.8	1	I	外	外	I	I	II	その他 (防護欄)	腐食	I	B	H28
19	押川4号橋	押川線	大宜味村字押川	RC床版橋	不明	20	50	0	8.0	1	I	外	外	I	I	II	その他 (防護欄)	腐食	I	B	H28
20	押川5号橋	押川線	大宜味村字押川	RC床版橋	不明	20	50	0	8.3	1	I	外	外	I	I	II	その他 (防護欄)	腐食	I	B	H28
21	押川6号橋	押川線	大宜味村字押川	RC床版橋	不明	20	50	0	8.8	1	I	外	外	I	I	II	その他 (防護欄)	腐食	I	B	H28
22	あざか橋	平南線	大宜味村字津波	RCT桁橋	1981年	36	66	0	15.0	1	III	II	III	II	II	II	主桁	ひびわれ うき	III	C2	H28
23	BOX橋	平南線	大宜味村字津波	RCBOXカルバート	不明	20	50	0	2.0	1	II	I	外	外	外	I	その他 (ジョイント)	摩耗異常	II	C1	H28
24	鷹喜比橋	田嘉里線	大宜味村字田嘉里	PCホロースラブ橋	1979年	37	67	0	18.2	1	I	外	I	I	I	II	その他 (防護欄)	ポルト折損	I	B	H28
25	川茶橋	野国線	大宜味村字田嘉里	RC床版橋	1981年	35	65	0	18.0	1	III	外	III	I	I	II	主桁	鉄筋露出、うき	III	C2	H28
26	浴川橋	浴川線	大宜味村字高加賀	RCT桁橋	1977年	39	69	0	15.4	1	III	II	III	II	I	II	床版	剝離・鉄筋露 出、うき	III	C2	H28
27	1号大川橋	大川線	大宜味村字田嘉里	RC中空床版橋	1993年	23	53	0	13.4	1	I	外	I	I	I	I	その他 (防護欄)	腐食	I	B	H28
28	2号大川橋	大川線	大宜味村字田嘉里	RCT桁橋	不明	20	50	0	8.0	1	III	II	II	I	I	II	主桁	剝離・鉄筋露 出	III	C2	H28
29	上アガカ橋1号橋	津波江州線	大宜味村字津波	PCT桁橋	2001年	15	45	0	57.0	2	I	I	I	I	I	II	その他 (継接)	補修	I	B	H28
30	上アガカ橋2号橋	津波江州線	大宜味村字津波	PCT桁橋	2000年	16	46	0	60.0	2	I	I	I	II	I	II	下部構造 (A1)	土砂堆積・補 修	I	B	H28
31	BOX橋	津波江州線	大宜味村字津波	RCBOXカルバート	1987年	30	60	0	2.1	1	II	I	外	外	外	I	BOX間目地	漏水・遊離石 灰	II	C1	H28
32	平南橋	平南富原線	大宜味村字津波	PCT桁橋	2002年	14	44	0	40.0	1	I	I	I	I	I	II	その他 (地盤)	ひびわれ、う き、遊離石灰	II	C1	H28
33	江洲橋	海安江州原線	大宜味村字江洲	RCT桁橋	1978年	39	69	0	8.7	1	II	I	I	II	I	II	主桁	剝離・鉄筋露 出	II	C1	H28
34	安根橋	安根線	大宜味村字堤野	RC床版橋	不明	20	50	0	9.5	1	I	外	II	II	I	II	床版、下部構 造(A2)	ひびわれ、う き、洗堀など	II	C1	H28

NO	橋梁名・路線名	路線名	所在地	構造形式	架設年次 (西暦)	供用年数	供用年数 (30年後)		橋長 [m]	径間数	部材単位の診断						主な劣状と部材		橋梁毎の 健全性の 診断	対策 区分の 評価	最新 点検 年度		
											上部構造(下段はBOX)			下部 構造	支承部	その他	対象部材	劣状の種類					
											主桁 高橋脚 木柱	横桁 懸手	床版 ウイング										
35	根路鉦橋	根路鉦線	大宜味村字根路鉦	PC単純床版橋	2015年	1	0	31	0	0	11.1	1	I	外	外	I	I	I	—	—	I	A	H28
36	橋波橋	橋波渡口線	大宜味村字橋波	PCT桁橋	1985年	22	1	52	0	1	21.6	1	I	I	I	II	I	II	下部構造 (A1, A2)	ひびわれ、逆 層石灰	II	C1	H28
37	BOX橋	六田線	大宜味村字六田	RCBOXカルバート	2000年	17	0	47	0	0	10.1	1	II	I	外	外	外	I	その他 (防護欄)	腐食	I	B	H28
38	根路鉦	押川エーガイ線	大宜味村字根路鉦	RCBOXカルバート	1997年	20	1	50	0	1	9.2	1	I	I	外	外	外	I	—	—	I	A	H28
39	石保橋	立名原線	大宜味村字石保	RCBOXカルバート	1977年	40	1	70	0	1	9.3	3	III	外	外	外	外	I	頂版	うき 剥離・鉄筋露 出	III	C2	H28
40	結橋	結の浜線	大宜味村字安根	PCT桁橋	2011年	5	0	35	0	0	99.0	3	I	I	I	I	I	II	伸縮装置	雑生	I	B	H28
41	外堀田橋	外堀田線	大宜味村字外堀田	PC単純床版橋	2009年	7	0	37	0	0	12.6	1	I	外	I	II	I	I	下部構造 (A1, A2)	ひびわれ	II	C1	H28
42	外堀田橋(新橋)	外堀田線	大宜味村字外堀田	鋼床版桁橋	不明	20	1	50	0	1	16.3	1	II	I	I	I	I	II	主桁	腐食	II	C1	H28
43	兼久橋	大宜味大兼久線	大宜味村字兼久	RCBOXカルバート	2014年	2	0	32	0	0	7.7	1	I	外	I	外	外	I	—	—	I	A	H28
44	津波橋1	津波線	大宜味村字津波	RCBOXカルバート	2013年	3	0	33	0	0	2.3	1	II	I	外	外	外	I	側壁	ひびわれ	II	C1	H28
45	津波橋2	津波線	大宜味村字津波	RCBOXカルバート	2013年	3	0	33	0	0	2.2	1	I	I	外	外	外	I	側壁	ひびわれ	I	B	H28

表-1 橋梁定期点検要領における対策区分の判定区分

区分	健全性	対策区分	判定の内容
I	A		損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
	B		状況に応じて補修を行う必要がある。
II	C1		予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
	M		維持工事に対応する必要がある。
III	C2		橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
	E1		橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。
IV	E2		その他、緊急対応の必要がある。
	S1		詳細調査の必要がある。
	S2		追跡調査の必要がある。

判定区分: I (健全)

・損傷があり補修の必要があるものの、損傷の原因、規模が明確であり、直ちに補修するほどの緊急性がなく、放置しても少なくとも次回点検まで(=5年程度以内)に構造物の安全性が著しく損なわれることはないと思われる状態。

判定区分: II (予防保全段階)

・損傷が進行しており、耐久性確保(予防保全)の観点から修繕計画に含めながら適切な時期に補修等される必要があると思われる状態。なお、橋梁構造の安全性の観点からは、直ちに補修するほどの緊急性はないもの。

判定区分: III (早期措置段階)

・損傷が相当程度進行し、当該部材の機能や安全性の低下が著しく、橋梁構造の安全性の観点から劣化の状況と進行状況に合わせ早期に補修等される必要があると思われる状態。

判定区分: IV (緊急措置段階)

・即時の通行規制や応急措置など、即時に何らかの安全措置を行う必要がある状態。